

平成 28 年度第 19 回幼小中一貫教育研究会の様子

保護者の皆様のご協力をいただき、12月2日・3日に本学校園研究会を開催しました。「希望（のぞみ）視点の保育」、「希望（のぞみ）」・各教科の授業と生徒・保護者役員の様子や参会者の声をお知らせします。

年少
年中

入門期

「いっしょにやってみるってたのしいね」

年中組が年少組を自分たちの忍者屋敷に誘い、年少組の様子を見て、やり方を説明したり忍者のあてや忍者迷路で遊んだり、忍者のごちそう作りをして一緒に食べたり踊ったりして、みんなで過ごす楽しさを感じることができました。

いっしょにおどると、
たのしいねえ！（年中）



おねえちゃんみたい
にかっこよくする
よ！（年少）

★参会者の方の声★

- ・先生同士の連携が密にとってあり、個の姿を多方向から見て、子どものつぶやきや思いを多様に受けとめられていると感じました。
- ・子どもたちがとてもしっかりと成長していることを感じました。自園でもできる所から取り入れていきたいと思います。

年長
1 年

幼小接続期

「みんなでいっしょに」

一緒に製作遊びに取り組みました。家の 2 階に乗ることができたことを喜んだり、ロケットを立ち上げてその大きさに驚いたり、歓声が上がる場面が何度もありました。

みんなで学び合う中で、感動的な瞬間・発見を共有することができました。

どうやったら、町の
三階の部分がぐらぐ
らしないかな。
（年長）



柱の数を増やしてみ
ようよ。（1年生）

★参会者の方の声★

- ・これまでの交流活動の積み重ねが、子どもたちの姿にあらわれていました。1年生らしさ、年長児らしさが見られました。
- ・製作遊びの中で、遊びがどんどん発展していくところが良かったです。

3 年
4 年

中間期

「いっしょに楽しもう！」

4 年生が 3 年生と一緒に楽しむ集会を企画・実行した後に、3・4 年生合同の授業で振り返りを行いました。それぞれの学年から課題を出し合った後、みんなが楽しむための改善案を考えました。その中で、集会の本来の目的に立ち返り、相手の立場に立ったかわりの大切さに気付くことができました。

企画してくれた 4 年生
側の立場に立つて、感謝
しながら活動すること
が大切だね。（3年生）



3 年生に楽しんでもら
うためには、上の学年と
しての思いやりが必要
だね。（4年生）

★参会者の方の声★

- ・子どもたちの成長の流れに合わせたつながりがあり、子どもたちに寄り添った指導内容・方法であると感じます。
- ・子ども同士がつながっている、そして他学年ともつながっているのは、日頃からの取り組みの成果なのだろうと感じました。

6 年
7 年

小中接続期

「われらの誇り ○○中学校」

理想の中学校を作っていくために、3つの資料を根拠にして、6・7 年生それぞれの立場からアイデアを出し合いました。6 年生が思い描く理想と 7 年生が感じている現実とのギャップが明らかになり、そこに焦点を当てて話し合うことで、よりよい中学校生活を一緒に検討することができました。

6 年生のみんながどん
な学校にしたいか
が思いつくまで
よ。（7年生）



やっぱり 7 年生の方が
自分たちよりも現実を
踏まえて考えているね。
（6年生）

★参会者の方の声★

- ・特定の人の意見に偏ることなく、全員が話し合いに参加し、とても民主的に進んでいました。
- ・先生方が掲げられている 3 つの資質・能力が子どもたちの中に浸透していると感じました。

8年

最終期

「わくわく WORK 職場体験プロジェクト」

職場体験学習に向けて、地域の方をお招きし、働くことの喜びや苦勞などのお話を聞きました。そして「なりたい自分」になろうとしてくじけそうになる時に、背中を押してくれる「応援キャラクター」を考えました。そのキャラを自分の言葉で紹介し、これから職場体験に向けて、「なるべき自分」「なりたい自分」に近づけようとする気持ちが高まりました。

みんなのキャラを見て「なりたい自分」に重ねると、より頑張ろうと思えました。



★参加者の方の声★

- ・授業で子どもの心がしっかり動いているのがよく分かる。子どもたちの個性のすばらしさや感性がくすぐられていた。外部講師の活用が光る。本物に触れ、今まで会ったことのない人に会うなどの教育的価値が高い。最後に、友だちのキャラを紹介する時、選んだ理由が明快であった。

9年・保護者

生徒・保護者役員の様子

「相手の立場になって考えて動く」

生徒と保護者が受付係・案内係・接待係・書籍（掲示）係に分かれお客様をお迎えしました。打ち合わせの段階から経験することで、運営側の苦勞を知ること、相手の気持ちになって応対することなど、9年生にとってとても貴重な経験となりました。

丁寧に、正確に・・・そして笑顔で！

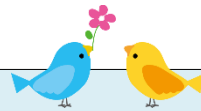


★参加者の方の声★

- ・お客様への対応がとても丁寧でした。仕事の内容をしっかりと把握していて、笑顔でスムーズに動いていたので感心しました。
- ・このような場面でもお互いに声を掛け合いながら対応できる力が育っているのだなあと感じました。



研究開発フォーラム



1部

『希望（のぞみ）』で学ぶ子どもたち」をテーマに、2，4，8，9年生の代表が学んだことを紹介した後、コーディネーターの小原友行先生からの質問に元気よく答えました。



NEW

5年生による「子どもプレゼン」

昼休憩の体育館では、5年生の代表3チームが「希望（のぞみ）」での問題解決の様子や感想を映像で紹介し、ご来場の先生方の質問に答えました。



2部

「資質・能力の育成をめざした主体的な学びの創造」をテーマに運営指導委員と研究開発学校等の先生方による研究開発サミットを開催しました。



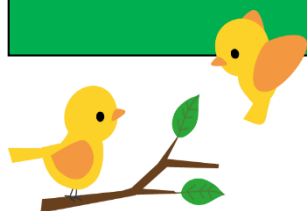
★第2部の内容★

深澤清治先生のコーディネートにより、シンポジストの先生方に、「資質・能力の育成をめざした保育・授業を通して、学校、子ども、教員が、具体的にどう変わったのか。」「主体的な学びに向けてこれから学校として取り組む際に鍵になることは何なのか、課題は何なのか。」について各学校園の取組を交流していただきました。また、コメンテーターの白梅学園大学大学院 無藤隆先生と千葉大学 天笠茂先生に、これからの学校教育のあり方をご提案いただきました。

「研究開発だより」（カラー版）をHPに掲載していますので、併せてご覧ください。

https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/kenkyu

保育・授業



本学校園では、「キャリアプランニング能力」「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」の3つの資質・能力を、学校教育活動全体を通して育成する資質・能力ととらえ、「通教科的能力」として位置づけています。

保育・教科部では、保育・各教科で身につけるべき力とともに、「通教科的能力」を育成するための取り組みを、12年間のつながりを意識しながら進めています。

保育・各授業で、子どもたちが学びを深めている様子をご紹介します。



音楽科部会



2年2組



7年1組

創作のプロセスの中で、音楽を学んでいる姿が見られました。目的意識をもって創作する楽しさを、仲間とともに味わいました。

図画工作・美術科部会



2年1組



8年2組

対話を通して友だちとかかわりながら、発想を広げたり、構想を深めたりし、新しいものやよりよいものを創造しようとする姿が見られました。

体育・保健体育科部会



3年1組



6年1組

「空間」を見つけた走りこんだりする動きを、チームの仲間と対話しながら見つけて動く姿が見られました。よりよい動きを主体的に模索しながら学びを深めました。

外国語活動・英語科部会



5年2組



7年2組



9年2組

自分の考えを英語で表現するために、ICT機器を使って英語表現を調べ（5年）、学校生活の紹介文を作って交流し（7年）、ペアでまとめた考えをスピーチする姿が見られました（9年）。

家庭科部会



8年1組

幼児の生活習慣についての疑問点を金岡副園長先生に質問しました。その学びを自分の言葉にして仲間と交流し、対話的に深めることができました。

保育部会



年長（きく組）

ドッジボールを通して子どもたちが、投げる、よける、転がるボールを追うなど、様々な動きを身に付けていました。また、ルールについて自分たちで話し合っ決めてながら遊びを進めていました。

国語科部会



1年1組



4年2組



7年1組

一人ひとりのもっている考えを、コミュニケーションを通して、よりよいものにしていこうとする姿が見られました。

生活科部会



1年1組

疑問を解決する方法を自分たちで考え、じっくり観察する中で、発見を楽しみました。

社会科部会



4年1組

テレビと家庭・家族との関係の変化から、これからの家族のあり方について考えました。

算数・数学科部会



1年2組



6年2組



8年2組

確率につながる考え方を説明したり、試行・実験からデータを集め、数学的にどのように考えられるかを検討したりする姿が見られました。

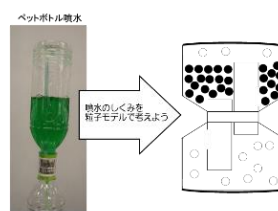
理科部会



5年1組



6年1組



7年2組

疑問を解決しようと、子どもたち自身が仮説と検証方法を考え、実験を行いました。また、仲間と結果を交流し、全員が納得のいく結論を出そうとする姿が見られました。

講演会

演題：幼児教育と小学校教育の改訂の方向とは
白梅学園大学大学院研究科教授 無藤 隆 先生



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿や幼児教育と小学校教育の接続のあり方についてご講演いただきました。

演題：学習指導要領改訂の方向
～「学びの地図」と「社会に開かれた教育課程」～
千葉大学特任教授 天竺 茂 先生



「社会に開かれた教育課程」という理念、カリキュラム・マネジメント、学校段階間の接続・職業との接続等についてご講演いただきました。